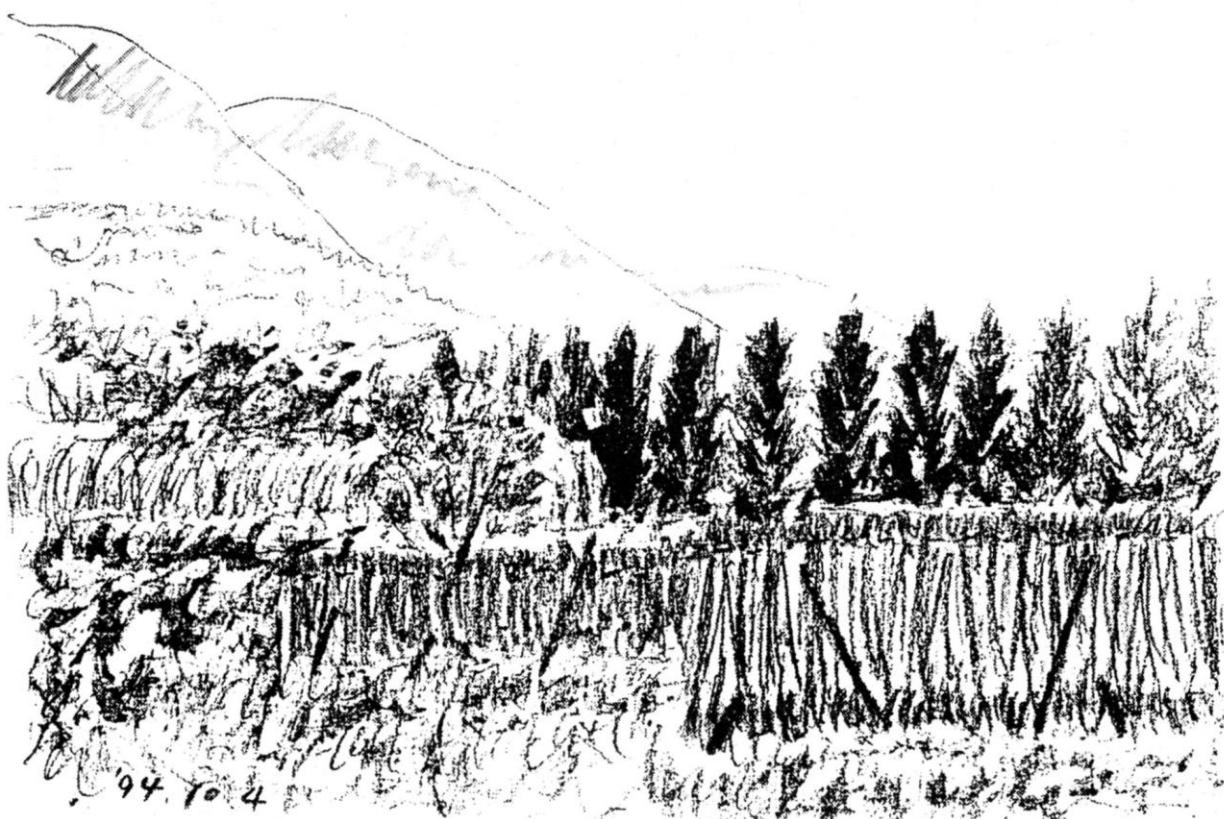


(1) 1994年10月20日

燎 原

第96号



スケッチ・稻かけ

奥田宣子

泉 隆・病床日記(4・完)

自一九六八年七月一五日至九月二十五日

戦前、戦後、京都で「農民運動の父」といわれた泉隆さんは、今から二六年前肺癌で京都安井病院に入院、約半年間の闘病生活を送りましたが、遂にその年の十二月二十二日京大病院で死去されました。享年六十六才でした。

この間泉さんは死の床にありながら二つの文章を書きあげました。その一つが「会心の闘争」といって自伝的闘争記録で、先年「山宣研究」誌に既に発表されました。他の一つがこの「病床日記」です。

今回御家族の御了解を得て発表することにしました。最期の最期まで闘争心を忘れなかつた泉さんの生きざまに、私達は深く感動をおぼえるものです。紙面の都合で数回にわけて掲載します。(一九九四・四・二〇)

朝、七時家に電話する。君代と家内が小さなことで言い争いをしているらしいので心配をする。四郎さんが家を建てるので大工さんが来ている。家内は岡本さんの葬式のため手伝いに町内会のことでとつてもいそがしいらしい。君代、四郎くんは今日から会社へ出勤。早く全癒して何よりも思へる。

前衛、参議院選の反省を読み得るところがあった。後「紅岩」を読む。

○九月一日 (月) 晴

朝、七時家に電話する。君代と

○九月一日

朝、七時家に電話する。君代と

家内が小さなことで言い争いをしているらしいので心配をする。四郎さんが家を建てるので大工さんが来ている。家内は岡

本さんの葬式のため手伝いに町内会のことでとつてもいそがしいらしい。君代、四郎くんは今日から会社へ出勤。早く全癒して何よりも思へる。

前衛、参議院選の反省を読み得るところがあった。後「紅岩」を読む。

○九月四日

朝、七時家に電話する。君代と

○九月六日 (金) 晴

今日店は休店して、産業会館の洋品雑貨の見本市に君代、家内が章子を連れて行く。章子が歩き回るのに大変だったとの事。昨年圭子がとうった同じ現象は今年章子が繰り返へす。

○九月六日 (金) 晴

今日店は休店して、産業会館の

○九月五日 (木) 晴

今日は問屋の支拂い日だ。君代の話だと何うやら問屋の支拂いは出来さうだ。商売に興味を覚へ張切つてやつているやうで嬉しく思ふ。昨晚から殆ど眠れない程、痰と咳が出て仕方がない。今度こそ全快したら身体を大切にすべきを真剣に憶ふ。

朝、七時家に電話する。君代と家内が小さなことで言い争いをしているらしいので心配をする。四郎さんが家を建てるので大工さんが来ている。家内は岡本さんの葬式のため手伝いに町内会のことでとつてもいそがしいらしい。君代、四郎くんは今日から会社へ出勤。早く全癒して何よりも思へる。

前衛、参議院選の反省を読み得るところがあった。後「紅岩」を読む。

○九月二日 (月) 晴

朝、七時家に電話する。君代と

○九月七日 (土) 曇

朝、七時家に電話する。君代と家内が小さなことで言い争いをしているらしいので心配をする。四郎さんが家を建てるので大工さんが来ている。家内は岡本さんの葬式のため手伝いに町内会のことでとつてもいそがしいらしい。君代、四郎くんは今日から会社へ出勤。早く全癒して何よりも思へる。

前衛、参議院選の反省を読み得るところがあった。後「紅岩」を読む。

○九月七日 (土) 曇

朝、七時家に電話する。君代と

○九月七日 (土) 曇

朝、七時家に電話する。君代と家内が小さなことで言い争いをしているらしいので心配をする。四郎さんが家を建てるので大工さんが来ている。家内は岡本さんの葬式のため手伝いに町内会のことでとつてもいそがしいらしい。君代、四郎くんは今日から会社へ出勤。早く全癒して何よりも思へる。

前衛、参議院選の反省を読み得るところがあった。後「紅岩」を読む。

○九月七日 (土) 曇

朝、七時家に電話する。君代と

中山君の話によるとトロツキストが、日大、東大で暴れて居るところがない。彼等はマスコミに扇動されてよい気分になつてやつて居る。

恐らく昨年インドの運動をアメリカに利用されて斯の如きではなかつたかと思ふ。

○九月八日 晴・雨
「小城の春秋」を読む。日本人の反米（帝）思想をもつと普遍化する必要がある。中国はその点、反日思想を割合早く徹底して行つた様だ。我々の宣伝不足を痛感する。

学連に巣喰うトロツキストに対抗しこちらの陣営は鉄兜をつけ彼等の暴力に対抗するようになつたと中山君より聞き、よいこ

とと思う。

夕方電話して家内が出で敬老会の事、色々世話をしている様子である。

痰が引掛つて中々出なく咳が多く出るが、前より非常によくなつて気分もよい。

○九月九日
「小城の春秋」を読み終る。革

▲ 劃にとって経験を豊富にする点で有用と思ふ。井本検事総長が「花蝶」の料理屋で福田・池田と会合した事がアカハタで暴露されている。奈良県の教育委員会による汚職、厳正を装ふ司法の出鱈目。すべて非民主化・軍国主義化・独裁制官僚色のところにボーフラがわく。そんな所、あらゆる機会に民主化の斗争を進め、国民を進ませねばならぬ。

○九月十日 (月) 晴

家へ電話した。君代も家内もいそがしそうだ。私の身体も最近非常によいように思われる。今日「小城の春秋」の下巻をよみ終る。立派な党员の態度・覚悟等習うところ多し。

○9/11 (水) 晴

夜、咳止めの注射の為か比較的眠られるようだが、未だ痰は切れず咳込むことが多い。晝眠る。小仁・古沢氏が面会に来た。西院の工場……へこの所不明何とかしてくれるだろう。西地区委員会に相談をするよう

電話。圭子が非常に利口になり恵子と朗かそうで楽しく思う。

○9月14 土曜日
中国小説「山峡巨変」を読む。

○9/12 (火) 晴

最近、痰も切れる。前よりは身体の具合はよい。

党の農民問題の文献を読む。午前内、圭子を連れ面会に来る。

圭子の利口に育っているのを見て心楽し。

差入の本として毛沢東の哲学。第十回党大会の記録及中国小説・山峡巨変を持って来てくれた。

十六日午後二時、アカハタ記者が訪問すること午後山中君が来て心楽し。

○9月15日

今日は老人の日である。町内会長として敬老会の世話をすべきだが、今年は家内が全て私の代理に世話をしている。三月一五日でなく、嵯峨敬老会は大津ビワ湖畔で行うことになった

今日は赤旗で社会党の大会はどうだ。

社会党の再建大会があるが、何ら反省なしの大会、成功する筈がなし。天下にその醜を晒すものと思う。

医師が絶対安静を守るよう注意を受く。

又、法政大学その他のトロツキストは全学連が一般学生より孤立して行く状態なり。党的政策の成功は重視する事と思へる。

革命を成功していいよ社会主義革命を農村で実行する。人々の色々の觀念を改革させねばならない甚だ困難な仕事である。午前太秦のお父さん見舞い来られる。

一日も早く立なおってほしいと思う。

ては痰が出る。仲々痰が切れず困った事。症状仲々うまく行かない。

○16日 (日) 晴

朝、君代が来て入院費一万一千円支拂う。着替やら沢山の草花を持って来た。

午後赤旗記者阿部君、安井病院の大原・山中君が私の病室に来て色々話す。阿部君、私の原稿「我が会心の斗争」選挙違反の原稿渡す。

社会党のゴタゴタ何とも出口の見えていない程困難して居るやうだ。病状は咳がはげしく出て困つて居る。

○17日 (水) 晴

今日敬老会で家内は町内の七十才以上の老人を連れて大津へ行く。事故のない様電話で注意する。正午山中君訪れる。川上君の葬儀に昨日大阪へ行って来たと報告。私の病状が進まないのが不思議だと思っている。

今日前に注文していた日本共産党綱領集を入手した。揚翔著「長白山脈を越えて」を読む。

○18日 (水) 晴

誠によい秋日和がつづく。秋のレクリエーションに誠に適当な時節だ。当病院の従業員も昨日から二班に分かれ、一晩どまりで出掛けた模様である。

終日「長白山脈を越えて」を読む。中国人民の朝鮮人民への援助、誠に美しき連帯精神である。米帝の残虐、天人共に許されないもの。どうしても米帝をアジアより放り出さねばならない。

○9・19 (木) 晴

今日もいい天気で暖かい。日本共産党の理念の問題で赤旗で党の綱領により我々は民主主義革命を望んでいるが、支配者階級こそ民主主義を破壊して暴力を望んでいることを、自衛隊の問題と関連して述べていることに共鳴する。民主主義のルールを守らないものについては「暴力」によってそれを防止することは当然である。

○9月21日 (土) 晴

引きつづき咳が出て寝れず。晝可なり眠った。三派学連の暴力に対する、法政大学その他で正当防衛を発動したのは甚だ痛快だ。これから民主主義を破壊する暴力主義はこの権利を発動すべきで、よい付きである。

○9月22日 曇後雨

家内は今日彼岸のお墓参りのため家を代表して大谷廟へ詣り、夕方電話で章子・圭子の元気な声を聞いた。

○9月20日 (木) 晴

よい天気続きである。外に散歩出来れば何んによいだろうと思う。回診になれば今日の胸の状況は良いと言う。安静にしておればよいであろう。今後、出来るだけ安静を守らねばと思う。

読書として山宣(田村著)と、共産党綱領集の共産主義イン

ター・ナショナルの綱領を読む。夕方電話をかけたら章子の元気な声が聞えた。

○9月23日 晴

咳が出て夜眠れず。午前中眠る時間が多い。前衛のベトナム芸術代表団長が滞日一ヶ月、熱誠あふれる日本人民に対する挨拶を読む。この日本人民の心をもつと澆漑と大々的に声援出来ないものか。日本の独立と共に大いに考えるべきと思ふ。

病院ではレクリエーション第三隊が今日出発した。

○9月24日 雨 火

台風十六号が日本本土を襲ふて居るので終日雨降りつづき、家に電話すると船井君が急死したとの事、家内は今晚ヨトギに行き、明日葬式に行くことにして居る。

古い党員だが近年酒を呑む習慣は止められず遂に急逝したことは残念である。享年58才、私は

呉れ共に帰宅する。

午前田村敬男同志が田中の羽田さんと共に訪れる。前より元気になっているので嬉しく思う。

夕方は村上中正君来てブドーの御見舞いを戴き、おいしく戴かせてもらう。色々話を交え楽しめた。

より10才若い。家内は仕事が忙しいので四郎君が店を出すことについてイライラしている。

○9月25日 雨 水

君代に電話する。色々商売の事、家庭の事で苦労をしているようだ。可愛相に想。
しかし困難にくじけず短気を起さず、人を怒らせず思想を変えることに努力することによつて人間が向上するのだと激励しておいた。

電話で圭子が可愛い声で話しがまでうたつて聞かせてくれる。一日中小説「迎春花」を読む。

○ 月 日

こゝで、この日記はと
だえていきます。
このあと泉隆は京大病院に転院、一九六八年十二月二十二日逝去されたのです。
文章の書ける最期の最期まで革命的信念を貫かれたのでした。

(編集部・湯浅)



本誌会員・羽原正一氏（大阪市在住、1902年生れ、92才になられる。「農民解放の先駆者たち—回想農民闘争史—」〔1986年刊〕の著者）が世話をされている「農民運動旧友会」の第12回

の集いが、94年6月26日大阪市福島区吉野2丁目、和食さと野田店で開かれました。その時の寄せ書きと会場スケッチの一
ピースが羽原氏より寄せられましたので、紹介します。

近詠十首
品角小文

たましいのすぐなる友と語らえ
わびしさ忘れ洗われていく
老いのねざめいつか覚えて枕辺に
もの書く用意忘れずにする
一羽とべば雀皆とぶ公園に
只寂々と陽のうみらなる
うつそみの心ゆたかに和みたり
窓にさしい秋陽のひかり
九十をまじかの年令と思えども
幸のうすきをなげかざる
老い我のとつぎ來し日より変わりなき
あれもせんこれもせんと思いつ、
動きに勝てぬ年となりたり
うつそみの心ゆたかに和みたり
猛暑にかわりて秋陽の日々
煩惱を断ち得し人の様に似る
公園の樹木の高き静もり
今日ひと日病床にいればあれこれと
思えばかりでいらだち多し

たましいのすぐなる友と語らえ
わびしさ忘れ洗われていく
老いのねざめいつか覚えて枕辺に
もの書く用意忘れずにする
一羽とべば雀皆とぶ公園に
只寂々と陽のうみらなる
うつそみの心ゆたかに和みたり
窓にさしい秋陽のひかり
九十をまじかの年令と思えども
幸のうすきをなげかざる
老い我のとつぎ來し日より変わりなき
あれもせんこれもせんと思いつ、
動きに勝てぬ年となりたり
うつそみの心ゆたかに和みたり
猛暑にかわりて秋陽の日々
煩惱を断ち得し人の様に似る
公園の樹木の高き静もり
今日ひと日病床にいればあれこれと
思えばかりでいらだち多し

—記録—

丹後ちりめん闘争(2)

川戸利一

今から三〇年以上も前、一九六一(昭和三六)年の丹後織物女子労働者の賃金引上要求を中心とする闘争は、教師の勤評反対闘争や安保闘争、さらにこの時期の政暴法反対闘争とも結びつき、丹後地方戦後最大の地域闘争として展開した。

五、網野織物労働者の歴史的なストライキ闘争

網野町民への訴え 網野織物労働者のストライキは激震として地場産業である丹後地方をおそった。業者は来たるべきものが来たと受とめ、大手機業主が「時代の流れにはさからえない」といつて長嘆息したことが象徴的に語られる一方、織物労働者の新しい息吹と期待がうずまき、地域住民もいやおうなしにストライキへの態度をせまられることとなつた。

丹後織物網野労働組合は、ストライキ突入にさいして、網野町民

への訴えのビラを全戸に配布した。町民への訴えは、
「私たち丹後織物網野労働組合に結集する一千名は一律三割、月平均二千五百円の賃上げを要求して四月十九日以来五回にわたる団体交渉をかさねてきましたが、十
五日、第六回の団交に於ても業者側の誠意ある態度は見られず、かえって第三回団交の回答を下廻る
ような回答を出して来ました。四
月支給賃金の一律一五%アップ、
これを四月から支給するとの回答、四十二円(一時間の賃金)以上の人については責任が持てない
と言っています。これでは誠意あ

る回答とは思えません。
 私達もこれ以上だまつてはおれません。私たちは今日、十六日の早朝より無期限ストに突入しました。

た。

事業主は今まで労働基準法に違反して十時間労働を強い、悪労働条件と平均わずか六六〇〇円(八時間労働)と云う低賃金の上でもうけをむさぼってきました。

ところ

で、私達織物労働者は皆

さんも御承知の通り一月から時間

短縮となり、一割三分の収入減になつた上に最近の物価高でこれ以上生活を切りつめることの出来ない所までおいこまれました。

私達のギリギリの要求に対し、

わずか一割五分の回答でつづばね、「ストをやるならやれ、組合がつぶれるだけだ」と公言しています。

この

よう

な挑戦的な態度には私

達の権利行使してストに入らざるをえなくなりました。この責任はすべて事業主側にあります。

私達は一千名の団結さえあれば

かならず勝利すると確信していま

す。

私達は生活を守るために、全丹後

の労働者の共闘のとともに、要求貫徹のためと、業者の反対なが

すために、最後までくじけず闘い抜くことを決意しました。町民のみさん、私たちの問題をよく理解され、私たちに強力なる御支援と御協力を願いします。」

と訴えた。この訴えはストライキに突入するに至った経過と、生活実態、そして闘いへの決意を簡潔に示したものであり、この声明通り、組合員の団結は強固なものであった。

ストに突入した五月五日十六日、十六日の朝六時、浅茂川、網野、島津の三地区に、スト突入を決意した組合員はエプロン姿にハチマキをして続々集まってきた。奥丹全域から集まるスト支援のオルグもこれに合流した。六時半頃、事業所別に配置されるピケ隊の編成が手際よくおこなわれ、ピケ隊は事業所に向って出発した。事業所に到着すると、工場の正門や裏口にピケを張り、非組合員の就業がおこなわれる場合にそなえた。こうして、浅茂川、網野、島津の三機業他、四十八の事業所で整然とストライキに突入し、一二〇〇台の織機が止まることになった。

機業主はストに突入する従業員の行動を予想することができず、

あまく考えていた。スト権を確立した時点で五四〇名の組合員は交渉が進む過程でどんどん加入者が増え、スト突入時は千百名の組合員となっていた。この事実が示しているように組合員の賃金要求は切実なものがあり、闘いへの意欲は根強いものがあった。

ストライキ突入の翌

奥丹後 総決起大会 日、(五月十七日)

業者間協定紛糾・低

賃金打破全奥丹後総決起大会が網野小学校講堂で開かれた。大会は、ストに突入し、闘う決意をみなぎらせた千名の織物労働者とこれを支援する、竹野郡、中郡、熊野郡地労協参加の労働者七〇〇名が参加して集会を成功させた。

大会は、ストに突入した網野労組の闘争経過と要求実現をめざして統一と団結の力で最後まで闘いぬく決意表明がなされたあと、業者と丹工本部に対する抗議文が満場一致で採択された。機業主に対する抗議文は、機業主を、労働者と対等の立場で諸君と呼ぶことから始まる次の内容のものであつた。

「機業主の諸君。
機業主への抗議文
万円以下の賃金で一

家四 バ生きてゆかねばならないといいた、劣悪な生活の経験がないでしよう。

しかし、賃下げをされた労働者がせめて平均二五〇〇円で生活の切り下げだけは防ぎとめたいという切実な要求がきけないはずはないでしよう。

諸君の頭はいま別のところにあるようだ。他地域の事業主にそそかされ、事の解決より、組合のぶつぶしに全力をあげているようだが、その望みは必ずついえさるであろう。いまや全奥丹の労働者が慎のまなこと、力をもって立ち上がったのだ。

諸君のなすべきことは、労働者にまず食える賃金を保障し、問屋勢力・独占に立ち向かうことである。

- ・三割要求を直ちに承諾せよ。
- ・一切の不当労働行為、組合への不当介入をやめよ。

全奥丹の共闘の名において右要求する。

右抗議する。

とする内容である。先の機業主と結んでおり、闘いの中で成長し、機業主と対等の立場で要求の実現をはかるとする労働者の心情が示されたものであった。

又、丹工への抗
丹工本部への抗議文 「丹後ちりめん産業が低賃金構造にあぐらをかいて存続してきた事、織維産業の他企業に比較してその賃金格差のはなはだしいことは周知の事実である。

ところが工業組合はこの様な状態を改善しようとせず、一二三四円の業者間協定による最低賃金をきめたため、われわれは月額五六〇〇円という低い水準に足を引張られる傾向にある。これは全京都の賃金水準に影響を与えるものである。業者協定は直ちに撤回せよ。

現在、網野労組が自らの生活を守るために一律三割の要求をかけているがこのようないふは直ちに中止せよ。

賃上げというより、自らのぎりぎりの生活を切り下げられないため、三割アップの要求で斗つて一七〇〇名がここに決起した。

賃上げというより、自らのぎりぎりの生活を切り下げられないため、三割アップの要求で斗つて一七〇〇名がここに決起した。

賃金、労基法違反の事実に目をつぶって、不当労働行為を奨励しているがこのようないふは直ちに中止せよ。

十六日からの無期限ストに対しても一切回答を考えようとせず、ひたすら不当労働行為を重ねることで組合つぶしをはかり、丹工本部はこれを奨励している。

また丹工本部は伝統的な賃金を据えおくため、更には政府の低賃金政策のお先棒をかついで一二三四

織物労働者の食える賃金を保障するため、室町の問屋と闘えとする内容となっている。織物労働者の闘いは、低賃金打破にむかって、正しい問題解決の方向をあきらかにし、機業主にたいして、組合への不当労働行為をやめ、真の問題解決への努力を強く求めるものとなっているのである。

決起集会は、万場の拍手で大会宣言を採択した。宣言文は、「女工袁史の名のとおり、伝統的な低賃金の地帯、奥丹の全労働者一七〇〇名がここに決起した。

十六日からの無期限ストに対しては一切回答を考えようとせず、ひたすら不当労働行為を重ねることで組合つぶしをはかり、丹工本部はこれを奨励している。

また丹工本部は伝統的な賃金を据えおくため、更には政府の低賃金政策のお先棒をかついで一二三四

円の業者間協定を押しつけようとしている。

網野の斗いはまず第一に、機業の抑圧から解放し、労使対等の地位をきずくための闘いであり、第二に奥丹の低賃金打破、業者間協定粉碎の突破口となるものである。

われわれは、全丹後の総力をあげて織物労働者の賃上げ闘争を勝利させ、機業主の頑迷な頭をきりかえさせるまで闘いぬくであろう。」

と力強く宣言し、ストライキに突入した織物労働者とこれを支援して闘う丹後の労働者の強い連帯の決意を示したものとなつた。

集会後、参加者は、織物労働者を先頭に、一時間半の町内デモをおこない、闘いへの支持を訴えた。

網野織物労働者の闘いにはげまされた丹後全域の織物労働者は五月二十三日、網野中学で、網野織物闘争支援の決起集会を開いた。

集会の主催は、丹後地方紡織労働組合連絡協議会(丹織連)がおこなうはじめてのものであった。丹織連加盟単組のうち、三津、

遊、河辺、口大野の労組は半日ストで参加し、弥栄、丹後町などの加盟単組からの参加者も含めて、千五百名の決起集会となつた。

決起集会では「織物労働者の生

活実態をよく考えて、親方意識を捨て、すみやかに三〇%賃上げ要求を受け入れよ」との抗議文を可

決し、網野織物闘争は全丹後の織物労働者の賃上げ闘争の突破口であり、前哨戦として位置づけ、全力をあげて支援する決議をおこなつて、デモ行進に移った。デモ行

進は、網野、浅茂川、島津の七千口を労働歌を唱い、繰り返すな、女工哀史のプラカードを掲げて行進し、機業組合前ではジグダグデモで気勢をあげた。

機業組合側は、織物労働者の団結が強く、従業員への切りくずし

工作や、組合員への職場復帰を呼びかけた新聞折込みも功を奏しない中で、六月三日の政暴法粉碎と結合した大規模な集会に発展することをおそれ、六月一日にスト後はじめての団体交渉を浅茂川の機業組合でおこなうことに合意した。

第一回 団体交渉は労使双方十五名が出席しておこなわれた。席上、機業側の田辺

組合長は、女子工員は一律一時間六円の賃金引上げで、最高を一時間四十四円とする。男子工員は、一時間八円の賃金引上げで最高六十三円までとする。これに一時金五百円を加算して、三月にさかの

一時間八円の賃金引上げで最高六十三円までとする。組合側は、この回答では、五百円を加算して、三月にさかの一時間八円の賃金引上げにしぱり支給するとする回答をおこなつた。組合側は、この回答では、

五百円を加算して、三月にさかの五百円を加算して、三月にさかの

間四十四円とする。男子工員は、一時間八円の賃金引上げで最高六十三円までとする。これに一時金五百円を加算して、三月にさかの一時間八円の賃金引上げにしぱり支給するとする回答をおこなつた。現地での戦術委員会や単組代表者会議の中で、政治闘争と経済闘争を分離し、闘いの巾をせばめていこうとする右からの頑強な反対が終始おこなわれたのである。その主な主張は、

「網野労組の賃上げ闘争に政暴法という政治問題をもち込まれるのは反対だ。」

「組合員は賃上げで闘っている。そのことを支援してくれるのはよいが、他の労働組合で問題となつてゐる政暴法と一諸にたたかうのは組合員が混乱する。」「どうしてもやるというなら、六月三日の集会は網野以外のところでやつてもらつて、網野労組支援の決議をやってもらいたい。」

「網野労組の要求をかちとるとが戦線を拡大することだ。政暴法と結合させることではない。これが労働運動の原則だ。」などとこうした主張を批判し、説得し

場一致の決定となつたものである。

大会の成功をめざして、参加団体の討議がすすんでいった。特に織物労働者は、連帯のストライキで参加する方向での討議がすすみ周枳、河辺、和田野、鳥取の織物労組のスト参加が決まった。和田

野、上場(六〇名)では、スト参

加を提案しようとした組合幹部

を罷免し、あたらしい役員を選出

してストに参加した。又、加悦・

奥大野・口大野も多くの組合員が

ストライキで参加することを決

め、木橋・三津・野田川等でも振

り替えで参加することにな

った。

六月三

日は、汽車、バス三〇台を

はじめ、

奥丹各地

からは自

転車部隊

が会場の

網野小学校

校庭に

むかっ

た。数キ

ロの列を

作って参

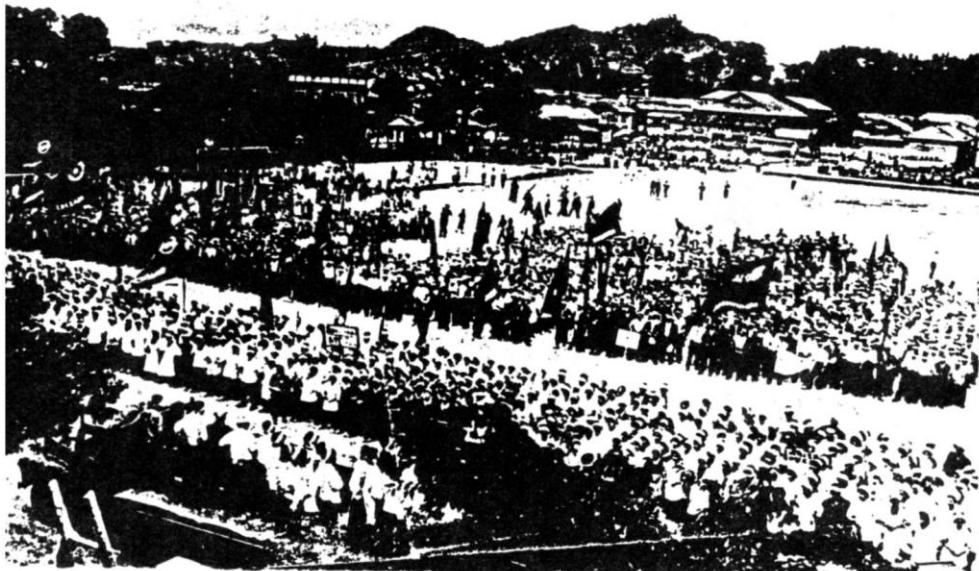
加する銀

輪部隊は

壮観であ

った。会

場には赤



集会後、参加者は、網野、浅茂川、島津をデモ行進し、デモは夕刻まで続き、織物の町を圧した。織物労働者は労働者の連帯に感動し、闘いへの確信を強め、町民もう一方の強い支援の中で闘われておられた時代は確実に過去のものにならうとしていることを知った。

業者側は十年前に賃上げでストに入れた織物労働者の闘いを三時間でつぶした経験をもつてい

が高らかに宣言され、政暴法は労働者に向けた弾圧立法であり、労働者の生活と権利、日本の民主主義を守るために、自民党の国会での暴挙を糾弾し、悪法粉碎まで闘うことなどが決議された。

94・4・4～10・18に受領させていただいた方々のお名前を掲載させていただきます。厚く御礼を申しあげます。

領収書にかえて

『燎原』事務局

大槻 幹郎	宇治市
岩井 忠熊	右京区
枝浪 真太郎	南区
中野 信夫	北区
井垣 綾子	左京区
飯田 助左衛門	北区
東山診療所	東山区
手塚 亮	岡山県苦田郡
安田 汀	右京区
橋 瞳子	南区
井ヶ田 良治	長岡京市
儀俄 杜一郎	川崎市麻生区

